



ムダ遣い  
やめて!!

小さな庁舎で大きな福祉の近江八幡市へ

2017年4月 発行 No.3  
市民が考える庁舎の会  
近江八幡市北之庄町 742-5  
連絡 小西理・檜山秋彦 090 9612 4649

# 市民が考える庁舎の会



## 住民投票条例の 署名スタート集会

4月22日(土) 13時30分～ 近江八幡市文化会館小ホール

財政破綻を招く庁舎建設はムダ!!

「95億円の新庁舎建設の是非」を  
署名運動で問いましょう!

5月初旬から30日間の署名運動を展開

福祉を削りに削って  
豪華な庁舎建設

建設費用が高い庁舎になればなるほど、市民の暮らしと福祉に関わる予算が削減されます。安土町との合併7年間、富士谷市政は福祉を削りに削って不動産行政である大型事業を進めています。子どもの医療費無料化などの福祉水準は東近江圏域最低、認可保育園を建設せず待機児童の解消も見通しがありません。こんな豪華な庁舎を建てるお金があるのなら、くらし応援で市民の願いを実現させるべきではないでしょうか?

私たちは新庁舎建設は  
必要だと考えています

私たちは、今あるひまわり館、安土支所、南別館などを有効に活用して、庁舎としての機能を保ちつつ可能な限り建設費用を抑えるべきだと提案しています。

さらに、病院跡地に建設すれば、立体駐車場・地下駐車場や2回の引越し作業などの費用が不要となり、現庁舎の2倍ならば、市の見積もり単価で算定しても50億円水準になります。95億円の庁舎を50億円程度にできるのならば、それは財政的に余裕が生まれ市民の暮らしと福祉の予算に当てることができず。

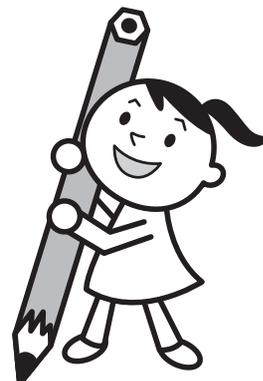
〔庁舎建設の一覧〕

	人口	延床面積	工事費
甲賀市	92,000人	14,362㎡	約65億円 5月8日から供用開始
長浜市	120,000人	18,690㎡	約55億円
つばめ市 (新潟県)	80,000人	13,000㎡	約45億円
近江八幡市	82,000人	18,500㎡	(約84億円) 立体駐車場}11億円 解体等 総額95億円

市長は入札を12月に前倒し

市長は市民の意見に背を向け、計画を前倒して12月に入札を行うおうとしています。黙っていたらドンドンすすみます。一方、この間私たちの運動で「おかしいことはおかしい」、「こんな重大問題を一方的にすすめるのはダメだ」の声が広がっています。

私たちは「95億円の新庁舎建設の是非」を問うために署名運動を始めます。スタート集会に参加ください。ご一緒に市民が暮らしやすい近江八幡市をつくっていきましょう。



(類似他都市の新庁舎建設一覧表等)より



# エーっ 財政破綻するかもしれない!! 新庁舎建設5つの大問題

新庁舎建設の特徴は、無理やり費用が高くつくようにしていることです。公共施設は、経済性、効率性、利便性を考慮して建設されるべきです。市民の声で税金のムダ使いをストップさせましょう!

## 問題1

**病院跡地に新庁舎を!  
財産は市民のためにこそ  
使うべき**

病院跡地は、そもそも墓地の跡地と同様に民間誘致には不向きで、庁舎建設に一番適しています。しかし、市は民間業者に50年という定期借地契約を結ぶ意向です。これは民間に土地を売却するのと同じです。無理にこれを通せば近江八幡版森友問題になる心配があります。官庁街に土地を提供してきた八幡学区の住民の約束を踏まえ、病院跡地は市民のために活用すべきです。

## 問題2

**全く不可解!  
建設地は、いつ誰が  
どうやって決めたの?**

病院跡地を除外する正当な理由を説明せずにきた不透明さがあります。平成26年6月の市議会では現庁舎敷地での建設を前提とした庁舎整備基本・実施設計業務委託事業の補正予算が可決され、新庁舎の建設位置が現庁舎敷地に決定した、と市は説明しています。しかし提案時には、現敷地が前提であることを説明せず、補正予算の可決をもって位置が決定されたというのは、ずるいやり方としか言いようがありません。

## 問題3

**高過ぎる建設費は  
市の財政を破壊する!!**

新庁舎建設の費用95億円は類似市に比べても異常に高く(左下表参照)、将来の財政に与える影響は深刻です。市が作成した平成28年度中期財政計画及び平成28年度見直し版に基づいての財政見

新庁舎に  
異議あり  
多数の声

**パブリックコメント  
172件  
市の説明会は形ばかり**

3月25日に市当局が開催した市民報告会では、「なぜ更地の病院跡地ではないのか?」「広い土地があるにもかかわらず、なぜ立体駐車場や地下駐車場なのか?」といった肝心な質問に対し、市当局は「今回求めているのは基本設計についてのみである」と退け、また誰もが聞きたかった「なぜ更地の

## 問題4

**安土支所、ひまわり館  
などの活用でコストは  
何と2分の1**

通しを考えると、平成39年頃には、現在136億円の積立金をすべて費消し、財政上、まったく余裕がなく、創意ある新規取り組みが何一つできない状況になること、加えて、地震などの災害事態に対応する資金も持ち合わせない団体になります。私たちは身の丈に合ったコンパクトな新庁舎を建設することこそ、市財政を破綻させず、暮らしを守る道だとかんがえます。

新庁舎の延べ床面積18,500㎡は、現庁舎の約3倍もの大きさとなり、常識的に考えて大きすぎます。教育委員会のある南別館、ひまわり館、安土総合支所などの既存建物を有効に活用すれば、現在の2倍の規模でおさまり、十分に市役所機能を果たせると考えられます。その場合には、面積約13,000㎡であり、庁舎建設工費は、庁舎整備計画の算定に用いられている㎡単価35万円×42万円で算定すると、約46億円から55億円で済

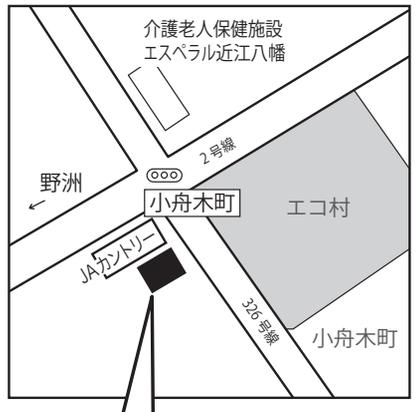
## 問題5

**行政サービス充実がトツプ  
市民の声を聞くべき**

病院跡地に建てるより大幅に費用がかさむ現敷地になったのかの問いについても、納得できる説明はありませんでした。パブリックコメントを受けての説明会ならば、これらの声を受け止めて再検討を行うのが行政の本来のありべき姿ではないでしょうか。富士谷市長のこのような進め方は、市民報告会が形ばかり、つまり市民の意見に耳を貸さない独善的対応であることを示しています。

市は官庁街をにぎわい・交流ゾーンとして再開発し、それと一体化になる庁舎とする考えから庁舎内に交流機能の4,000㎡が必要と説明しています。しかし市が行った「官庁街のこれからのまちづくりに関するアンケート調査」(平成24年9月)でも、「行政サービスが一層充実しているまち」が45.2%のダントツで、市民が求めているのは、なによりも行政サービスの充実なのです。

署名運動の  
事務所ができました



エコ村の西側  
(ベビーフェイス隣の事務所)

「市民が考える庁舎の会」はみなさまのカンパによって支えられています。なにとぞご協力のほどお願い申し上げます。